

STEP3 図や表を挿入しよう

1 作成する文書の確認

次のような文書を作成しましょう。

画像の挿入

図表番号の設定

SmartArtグラフィックの作成

経済史入門レポート

経済学部経済学科
19K151 中村 久之

ユーロの導入と発展について

1. はじめに

「ユーロ(€)」は、欧州連合(EU)の経済通貨単位で使われている通貨単位で、2017年現在のEU加盟国27か国(イギリスを除く)のうち19か国で使用されている。本レポートでは、米ドルと並ぶ第2の基軸通貨として扱われるユーロが、どのような経緯を経て導入され、現在に至るのかをまとめた。

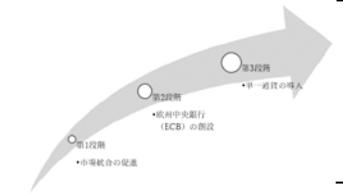


図表1 ユーロの写真

2. ユーロ導入の経緯

- 1957年 欧州経済共同体(EEC)の創設
米英などの諸国に対抗できる経済圏を確立するため、フランス、イタリア、ベルギー、オランダ、ルクセンブルク、ドイツの6か国によって欧州経済共同体が創設された。これはヨーロッパ内で自由な資本移動や市場統合を目指すもので、この段階では通貨統合の動きは特になかった。
この欧州経済共同体と、すでに創設されていた欧州石炭鉄鋼共同体(ECSC)、欧州原子力共同体(EAEC)をまとめて欧州共同体(EC)という。
- 1970年 ウェルナー報告書の発表
米ドル不安を契機として、ヨーロッパ経済をドル本位制から脱却させるために通貨統合を目指すウェルナー報告書が発表された。ウェルナー報告書では、資本移動の完全な自由化と金融市場の統合を実現するために、経済調整と為替変動幅の縮小を段階的に図っていくことが提案された。しかし、1971年のニクソン・ショックと1972年のオイル・ショックのためにこの計画は頓挫することになった。

- 1979年 欧州通貨制度(EMS)の創設
ヨーロッパ各国で不況とインフレが併存する状態となり、ドイツとフランスを中心に為替相場の安定化・安定的な通貨圏の創設を目的に、欧州通貨制度が創設された。米ドルに代わり、ユーロの原型となる欧州通貨単位(ECU)が導入されることになった。
- 1989年 ドローレ報告書の発表
各国間や欧州通貨制度を運用するにあたり、経済通貨問題だけでなく国家間の経済同盟が必要であるとしたドローレ報告書が発表された。ドローレ報告書では、単一通貨の導入までを次の図で示す3段階で行うとし、具体的なスケジュールが提案された。



図表2 ドローレ報告書による単一通貨導入までの流れ

- 1992年 欧州連合の創設
ドローレ報告書に基づき、第1段階として各国の市場統合が行われた結果、マーストリヒト条約が締結された。マーストリヒト条約は、欧州連合の創設を定めた条約で、単一通貨の創設と、政治および内政分野での政府間協力を支えるための次の3点を柱として規定したものである。

3つの柱		
欧州共同体	共通外交・安全保障政策	警察・刑事司法協力

図表3 マーストリヒト条約の3つの柱

このマーストリヒト条約の発効により、通貨統合は第2段階に移り、欧州通貨機構(欧州中央銀行の前身)が設立され、通貨統合の参加国が決定した。また、マーストリヒト条約では、第3段階への移行として、各国が一定の経済的基準に到達していることも条件としている。

- 1999年 単一通貨「ユーロ」の導入
1998年、第3段階に移行する11か国が選定され、11か国の通貨とユーロの固定レートが定められた。その1年後に11か国にユーロが導入され、単一通貨政策が欧州中央銀行の下で行われることになった。さらに3年の移行期間後、各国の通貨は廃止されている。

3. ユーロ導入国の推移

1995年に11か国で導入された後、さらに8か国で導入され、現在は19か国でユーロが使われている。ユーロ導入国は、次の表に示すとおりである。

図表4 ユーロ導入国の推移

導入年	国名
1999年	フランス、イタリア、ベルギー、オランダ、ルクセンブルク、ドイツ、オーストリア、フィンランド、アイerland、ポルトガル、スペイン
2001年	ギリシャ
2007年	スロベニア
2008年	キプロス、マルタ
2009年	スロバキア
2011年	エストニア
2014年	ラトビア
2015年	リトアニア

※2017年現在、欧州連合加盟国のうち、デンマーク・スウェーデン・ブルガリア・チェコ・ハンガリー・ポーランド・ルーマニア・クロアチアは、ユーロを導入していない。

4. ユーロ為替レートの推移

1999年にユーロが導入されたとき、一時は、ユーロの円に対する為替レートは、1ユーロ=94円まで下がった。そのため、各国にユーロに対する不安感が高まったが、2002年以降ユーロ経済の安定とともにユーロ高が続き、一時1ユーロ=171円まで上がった。

2009年のリーマン・ショックでは欧州中央銀行の融資により金融危機を回避したものの、2010年のギリシャに端を発する欧州債務危機により、ユーロ崩壊の懸念が高まった。その後、2012年には、欧州中央銀行が豪断で短期国債をほぼ無制限に買い入れることを発表したため、ユーロに対する不安が大きく緩和された。

しかし、2016年にギリシャの国民投票によりEU離脱が事実上決定すると、一時は1ユーロ=114円まで下がった。その後、EU主要国の中央銀行が協調姿勢を示したことから暴落は冷静さを取り戻し、現在はEU離脱決定前の1ユーロ=130円台まで回復するまでになっている。

ユーロが導入されてから現在までの為替レートの変動は、次の図の示すとおりである。



図表5 ユーロ導入国以外のユーロ/円為替レートの推移

(参考文献)
田中未古『世界金融危機を乗り切るために』(2010年・新泉社)
山本直哉『ユーロ導入と変わる欧州の未来』(1999年・経済再生社)
和田洋『現代欧州経済』(2015年・経緯社)

表の作成

Excelグラフを図として貼り付け

文書作成編

2 画像の挿入

自分で描いたイラストやデジタルカメラで撮影した写真などを画像ファイルとして保存しておくと、文書に挿入できます。

▶▶1 画像の挿入

文書に、フォルダー「文書作成編」の画像「ユーロ写真」を挿入しましょう。



フォルダー「文書作成編」の文書「図や表の挿入」を開いておきましょう。

- ① 「「ユーロ(€)」は…」の前にカーソルを移動します。
※先頭の空白の前に移動します。
- ② 《挿入》タブ→《図》グループの  (ファイルから) をクリックします。
- ③ 《図の挿入》ダイアログボックスが表示されます。
- ④ ファイルの場所を選択します。
- ⑤ 一覧から「ユーロ写真」を選択します。
- ⑥ 《挿入》をクリックします。
- ⑦ 画像が挿入されます。
※画像の周囲に○(ハンドル)が表示され、選択されていることを確認しておきましょう。



More オンライン画像

 (オンライン画像) を使うと、パソコンに保存されている画像以外にも、インターネット上にある画像を文書に取り込むこともできます。「オンライン画像」とは、インターネット上にあるイラストや写真などの画像のことです。画像のキーワードを入力すると、インターネット上から目的にあった画像を検索でき、ダウンロードして挿入します。ただし、ほとんどの画像には著作権が存在するので、安易に文書に転用するのは禁物です。画像を転用するには、画像を提供しているWebサイトで利用可否を確認しましょう。

オンライン画像を挿入する方法は、次のとおりです。

- ◆《挿入》タブ→《図》グループの  (オンライン画像)

▶▶2 文字列の折り返し

画像を挿入した直後は、画像は文字と同じ扱いとなり、行内に配置されます。文書内の自由な場所に配置するには、「文字列の折り返し」を設定します。文字列の折り返しを「四角形」に設定しましょう。

- ① 画像が選択されていることを確認します。
- ②  (レイアウトオプション) をクリックします。